

国際日本文学研究集会会議録(第14回)

PROCEEDINGS OF THE 14th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN
(1990)

国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

**PROCEEDINGS OF THE 14th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1990

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,

Tokyo, 142

目 次

あいさつ 小山弘志…………… 3

研究発表

- 「桃太郎」における鬼退治の意味 呉 讃 旭 …………… 9
- 説経節【小栗】における中世から近世へ Nicola LISCUTIN …………… 21
- 朝鮮通信使と歌舞伎 朴 賛 基 …………… 35
- 虫籠をめぐる詩歌史管見 鈴 木 健 一 …………… 51
- 異国で見る月 葉 英 樹 …………… 61
— 海を渡る者の詩から —
- 森 鷗外の「高瀬舟」と外国文学 張 小 玲 …………… 72
- 韓国モダニストの日本文学受容 佐 野 正 人 …………… 89
— 李箱詩と横光利一をめぐる —
- 鳥尾敏雄「日の移ろい」試論 Philip GABRIEL …………… 106
- 水上文学と中国 柯 森 耀 …………… 118

公開講演

- パラフレーズ分析について Karel FIALA …………… 129
— 平家物語・章段「殿下乗合」の構成をめぐる —
- 王朝の楽人達 福 島 和 夫 …………… 170
— 音楽史の一断面 —

記 録

- 第14回国際日本文学研究集会記録 (1990) …………… 185
- 参加者名簿 …………… 186
- 国際日本文学研究集会委員会名簿 …………… 189

あいさつ

小山 弘志

本日はお集りくださりまして有難うございます。この研究集會も今回で第十四回、多少年輪ができてきたように思います。

今年は研究発表に十五名の方の応募がありました。そのうちから九人の方をお願いをすることにして、お手もとのプログラムのよういたしました。プログラムを決めますのに委員会を設けており、館外から六人の先生にお加わりいただいております。委員長として国際基督教大学の福田秀一教授、以下五十音順に、明治学院大学の桑川光樹教授、清泉女子大学のアラン・ターニー教授、東京大学の芳賀徹教授、筑波大学の平岡敏夫教授、名古屋大学の山下宏明教授という方々です。この委員会で応募十五件について検討し、九人の方の研究発表を決めた次第です。そして、セッションをいくつかに分け、それぞれの座長を委員の諸先生をお願いいたしました。

今回は、中国・韓国といったアジアの方の御発表が多いことになりました。たしかある年には、女性の方が非常に多いといったこともございました。このようなことは年によっていろいろでございます。

今日は、これから六つの研究発表をうかがい、その後レセプションがございます。明日は、午前中に三つの研究発表があり、その後公開講演会が午後にご予定されております。この公開講演会は、チェコスロヴァキアのカレル大学のカレル・フィアラ教授と、上野学園大学の福島和夫教授をお願いしております。フィアラ教授は、現在、京都にあります国際日本文化研究センターに客員教授としておられるのですが、御足労願うこといたしました。フィアラ教授の御専門は国語学でございます。今回は『平家物語』の語法について、お話しただくということでございます。次に福島教授は、ご存じの方も多いと思いますが、上野学園大学で日本音楽資料室の室長もなさっております。その資料室

には日本音楽史関係の貴重な資料がたくさん集められています。福島教授は、作曲もなさると聞き及びましたが、日本音楽史に造詣の深い方であります。このように今回は、お二方から、狭い意味の国文学ではない、私どもにも興味のあるお話を伺えることになりました。

なお、ついでに申しますと、ただいま、当館の二階で『徒然草』関係の書物の展示をしております。複製本もいくつかございますが、ほとんどは当館所蔵の江戸時代の版本でございます。休憩の時間などに御覧いただきたいと存じます。それから、私どものいたしておりますいろいろな仕事について、この場で申し上げていたこともございましたけれど、今回はお手もとにパンフレットが配付されておりますので、それに譲ることにいたします。昨年度、日本語のものを作りましたが、今年は英語版も作りました。私どもが、乏しい人員と乏しい予算の中で、一所懸命にやっているという所を見ていただけますれば幸いです。ございます。

では、今日これからと明日、この集會が皆様の御協力により成功いたしますよう念じまして、簡単ではございますが、御挨拶といたします。

平成2年度国際日本文学研究集会委員会委員（五十音順）

委員長 福田 秀一（国際基督教大学教授）

委員 アラン・ターニー（清泉女子大学教授）

委員 糸川 光樹（明治学院大学教授）

委員 芳賀 徹（東京大学教授）

委員 平岡 敏夫（筑波大学教授）

委員 山下 宏明（名古屋大学教授）

（館内）

委員 新井 栄蔵（研究情報部長）

委員 武井 協三（情報資料室長）

委員 長谷川 強（文献資料部長）

委員 本田 康雄（整理閲覧部長）

委員 吉池 孝道（管理部長）

ウィリアム・ラフルーア客員教授は、平成元年4月5日から平成元年9月12日まで当館客員教授の間、館内委員として参加されました。

発行

平成3年3月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 3785-7131(代)

印刷所

睦美マイクロ株式会社

〒135 東京都江東区木場6-12-5

電話 (03) 3649-6791(代)